

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227

広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781

<http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm>

平成25年11月(2013年) No.575

第53回OMC映像フェスティバル 今年も盛会にて無事終了

初のアンケート結果も内容の充実さを裏付け

第53回OMC映像フェスティバルは、10月6日(日曜日)13時より大阪市立中央会館にて開催されました。当日はまずまずのお天気で出足もよく、遠く東京から舟橋栄子さん(世界の高峰に登っておられる登山家)岐阜の吉田瑞穂夫妻、四日市の門脇 篤夫妻(いずれも日本アマチュア映像作家連盟会員)等がご来場され会場が盛り上がりました。司会はベテランの細井靖子さんに依頼し、進行表通りの名司会で午後4時半を少し過ぎたところで閉会となり片付けもスムーズにすませました。今年も最大の行事を無事終えることが出来ましてほっとしました。

過日行われた懐かしの8ミリ映画を楽しむ会で、初めてアンケートを記入してもらいましたが、OMCでもアンケートを実施しようということで入場者に記入して頂きました。その結果の一部をご紹介します。

■アンケート結果も好評

▲アンケート回収率 83.3% ▲最少年 47歳 ▲最高年齢 88歳

▲男性 71% 女性 29% ▲平均年齢 74歳

▲内容 5段階評価

●大変良かった	5点	42%	●やゝ悪かった	2点	2%
●よかった	4点	35%	●悪かった	1点	0%
●普通	3点	21%	合計		100%

観客の皆さんから評価は5段階評価で4以上をつけてくださった方が、75%、4人のうち3人までの人が良かったと応えて下さいました。

11月例会は昼間の開催です

11月例会は第4土曜23日が祝日で、夜間の貸室はありませんので例会は午後1時からとします。お間違え無きようねがいます。場所は大阪市立難波市民学習センターですが、部屋がいつもの第4研修室がとれなく「第1研修室」となります。楽しい例会にどうぞ。

大阪アマチュア映像祭

OMCから4作品出品

大阪アマチュア映像祭は去る10月20日(日曜日)13時より大阪市立中央図書館で開催され9つのクラブが18本の作品を出品、うちOMCが、4本でした。

- ・森口吉正 伊吹山花紀行 HD 9分
- ・華岡 汪 ヴィクトリアの滝 HD 14分
- ・上総修一郎 氷河 DV 11分
- ・山本正夢 客家土楼 HD 12分

この日は朝から雨模様でしたが午後は降り止んで、会場へ来て下さる方も例年通りでした。芳名録記帳は180名位でした、記帳しない方も居られたので200名位の入りがあったと考えられます。ここでもアンケートをとりました。結果は今、関事務局長の方で集計中です。

■懐かしの8ミリ映画を楽しむ会

9月6日に行われた同会で初めてアンケートをとりましたが、入場者の平均年齢74歳、男女比率は3対1など貴重なデータが得られ、今後の参考資料となりました。

■新入会者の紹介

インターネットの縁で、お二人が入会されました。久しぶりの新入会員大歓迎です。

・吉村健一

住所：〒578-0935

東大阪市若江東町6-2-2

電話 06-6723-6108

携帯 090-7765-2678

・野田邦雄

住所：〒579-8015

東大阪市北石切町16-4

電話 072-986-1666

よろしく願いいたします。

■会員名簿送付

毎年11月に会員名簿を送付しています。記載内容に間違い、洩れ等がありましたら広報 前田までご連絡ください。

■出席者：有村、井上、上田、江村、岡本、上総、紙本、河合、合原、進藤、関、高瀬、鉄具、華岡、前田、宮崎、森口、森下、山本、渡辺の20氏と新入会者吉村、野田計22名。

上映作品 (今月の講評は高瀬世話役です)

1. 2011よさこい (BD)

江村一郎

7分40秒

作者お得意の「よさこい」。今回は市内中心地を少し離れた地区の祭りを撮影されたものとかで、「趣向を変え、いつもと違った編集を試みました」というコメントがあって映写。作者のコメント通り、踊りが始まる前のシーンでは、行き交う見物人や道で祭りを待つ人たちのゆったりとした雰囲気場面が続きます。しかし随所にいつものようにハッと思わせる作者ならではのカットも挿入されている。そして、踊りが始まる。やはりいつもと異なり、ややダイナミクスさを抑え、特殊効果も使われず編集されているが、踊る女性の顔のアップ、インサートされる映像などはいつもの作者らしさにあふれている。夜に入り、ライトに照らされた踊り手の表情をとらえ、迫力を増していきます。作品づくりのスタイルを変えるのは大変難しいといわれるが、新しい試みは映像表現の幅が広がり、作者の「よさこい」追求はまだまだ続きそうです。ただエンドマークの入ったラストの静止画は唐突な感じでやや不鮮明なのが気になりました。

2. キリコ海へ (BD)

河合源七郎

6分47秒

能登のキリコ祭の11編目の作品。太鼓の響きで始まり、高さ14メートル、重さ2トンのキリコ6台が登場。数多い能登のキリコも海に入るのは二つか三つだけ。そのうちのひとつで「七夕祭りにキリコが出るのは、この宝立町鶴飼だけである。日本の神様でないので神輿も出ない」というナレーションが入る。夜の浜辺に集まったキリコは次々に海に入っていく。波間にキリコの灯が揺れ、背後で花火が上がる。しかしキリコがかなり遠くに行くため、音声は花火の音だけ。海に入らない限り収音は無理なようです。そこでBGMが祭りを盛り上げるが、主に流れるのは男女のボーカルの入ったジャズと思われる曲。日本の伝統的な祭りとはジャズの組み合わせ、波間に揺れるキリコの幻想的な映像と妙にマッチし不思

議な雰囲気醸し出しています。キリコが浜に戻るシーンで終わりますが、BGMが異なれば、また違ったイメージになるのではないかとされます。

3. 落城物語 小田原城 (BD)

紙本 勝 18分25秒

小田原城は15世紀中頃に築かれ、名城百選に選ばれ、美しい姿を誇る。後に北条早雲がこの城を奪い、嫡男を城主とする。上杉謙信、武田信玄に攻め入られるが、これを撃破し、早雲は関東一円を勢力下におさめ、北条氏は百年にわたって君臨する。しかし天下を狙う豊臣秀吉、徳川家康、石田三成らに次々と周辺の支城を攻められ、やがて小田原城も落城、北条氏は滅び去る。この戦国の一大絵巻を小田原城をはじめ山中城、韮山城、松井田城、鉢形城、館林城、忍城、八王子城、石垣山城など10近くの城跡などを撮影され、それぞれの攻防、次第に北条氏が追いつめられていく模様を戦闘シーンの映像などを巧みに重ね合わせて描かれている。資料を調べ、話を組み立てるだけでも大変なのに、作者はすべての城跡を訪れ、それぞれの特徴をとらえたカットで構成されている。しかも地元ではなく、撮影場所はすべて関東周辺。どれくらいの日時を費やされたのか、その精力的な作品づくりには感服するほかありません。

4. ミャンマー紀行 (BD)

有村 博 13分30秒

ビデオクラブの友人3人と11日間にわたってミャンマーを周遊された時の作品。これまで「絆で帰郷」をはじめ「バガン遺跡」「ゴールデンロック」などのタイトルで、ミャンマー紀行の作品を見せていただいていたが、この作品はその総集編。ヤンゴンからインレー湖、さらにインディン遺跡、バガン、メイッティーラ町、マンダレーなど数々の町や寺院、観光地などを隈なく廻られ、まさに総集編にふさわしく、それぞれの選りすぐったカットでまとめられている。黄金色に新しく塗られた仏像や光で輝くような仏像が印象深く、昔ながらの素朴な農村や市場の風景も心に残る。旅の終わりはバゴのシュエターリヤウン涅槃

仏。仏像の前で作者がカメラにおさまり、「有意義で素晴らしい旅行でした」と締めくくられている。そんな作者の思いをあますところなく描かれた素晴らしい作品でした。

5. ブハラ (BD)

華岡 汪 11分47秒

古代から栄えた砂漠の中のオアシス都市、ウズベキスタンの観光の中心地「ブハラ」を尋ねられた海外旅行の作品。イスマイル・サーマニー廟、チャシュマ・アイユブ廟などイスラム朝の美しい建物などをバスに乗って観光。7世紀から存在するアルク城など歴史をたどる建物も紹介。モスクやミルアラブ・メドレセなどの神学校、帽子市場、宝石市場など珍しい風景も数多く撮影されている。特にバザールで刺繍をしているアップのシーンが印象的。そしてラストはこれまでの町の風景の映像から一転、ブハラの舞踊の鑑賞となる。BGMは映像に合っており、ナレーションも短く適切で非常に分かりやすい。気になるのは静止画を多用されており、建物や内部だけの映像は不自然ではないが、人物の写っているカットの静止画は今まで動いていた映像が突然停止すようで、流れがとまる違和感があるように思われます

6. 余部を俯瞰で撮る (BD)

前田茂夫 9分44秒

余部鉄橋はこれまでに何度となく訪れ、作品にされているが、今回はその余部鉄橋を山の上から俯瞰撮影を試みられた作品。江村さん、進藤さん、それに当地をよく知るスチールカメラマンが案内人として同行。目指すは標高400メートルの最奥。しかしこの山は登山道がなく、登るのが難しい。獣道か鉄チャンの跡しかない。急斜面を這うように登っていく4人。落ち葉を敷き詰めたような斜面はよく滑る。その様子をカメラがとらえている。登る人も大変だが、それを撮影するためカメラを構える場所に先回りして行くのも大変だったと思う。さらに撮影ポイントは斜面の途中ということで、トラロープを張って急斜面を下りる。やっとたどり着いた場所はまさに余

部鉄柱を俯瞰する絶好のポジション。海と山に囲まれた鉄橋を列車がゆっくり渡っていく。眺望の素晴らしさに「余部撮影の中でも一番思い出の深いものとなりました」とテロップが入る。映写時間9分44秒のうち、鉄橋の上を行く列車のシーンはおよそ1分ほどだが、凝縮された映像が印象的。ここで作品は終わりますが、山の急斜面は登る以上に下りるのが危険で、体力も使う。下山も大変だったのではないのでしょうか。

7. 采女幻想 (BD)

森口吉正

9分45秒

中秋の名月の日に行なわれる奈良猿沢池での采女祭を撮られている。奈良の都で帝の寵愛を失い、この池に身を投げた采女の霊をなぐさめるために催される祭り。JR奈良駅前から猿沢池のほとりに建つ采女神社まで伝統の衣装をまとった行列が行く。神事が行なわれる采女神社は入り口の鳥居に対して後ろ向きに建っている。采女の霊をなぐさめるため社を建てたが、身を投げた池を見るにしのびず、一夜にして後ろ向きになったという言い伝えがある。日が沈むと提灯の灯が池面に映り、浮灯籠が流れる幻想的な中、采女、神官、巫子らが乗った二艘の船が池を巡る。静かなBGMが雰囲気盛り上げます。そして船から秋の七草で作られた大きな花扇が池に流され、采女の魂に捧げられる。一連のまつりの動きを静かなカメラワークでとらえられており、幻想的な雰囲気が伝わってきます。ラストの中秋の名月のアップが印象的。以前、暗過ぎて、采女の表情などが撮影できなかったとかで、再挑戦され、今回はライトが当たり、思い通りのカットが撮影出来たということです。

8 開平楼閣群 (BD)

山本正夢

8分30秒

中国広東省の高層の楼閣で知られる世界遺産、開平楼閣群を撮影されている。「18～19世紀初め、多くの華僑が北米に渡り、財をなして帰国すると、中洋折中建築を取り入れ、防御を兼ね備えた楼閣を造り、現在1800余ある」とテロップで紹介。時を経ているが、堅牢な造りはがっしりとして

変わらず、水害や盗賊による被害を防ぐため鉄の二重扉や小さな窓、銃眼などが当時のありさまを思い浮かばせ、庭園の華僑の銅像や室内には肖像画、さらに家具や生活用具が残されており、往時を偲ばせる映像が続く。「6月は雨が多い」とテロップが入り、雨が激しく降るシーンに変わる。雨の日はどうしても撮影を控えたりするが、作者は雨も厭わず、かつての栄華の後の寂れた建物のなんともいえない侘しさを表現されている。雨上がりに顔を出す猫やつながれた犬、ニワトリ、木にとまる鳥などのカットなども印象的。そしてラストは中国の伝統建築、騎楼の夜の映像で締めくくられている。観光客でないような人の姿もみられるが、今も実際に住んでいる人がいるのでしょうか。

9. RANDEN (BD)

高瀬辰雄

12分30秒

京都の京福電気鉄道の嵐山線を撮った筆者の作品。以前は京福電車と言っていたが、最近では嵐電と呼ばれ、電車には今風にアルファベットでRANDENと書かれている。それで作品のタイトルもこれを使用。嵐電嵐山線は四条大宮から嵐山まで7.2キロ、約20分で行く。通常10分間隔で運行されていて13の駅があり、時には路面も走る。西院(さい)駅の踏切には京阪神でここだけという電鐘式警報機、山ノ内駅は幅60センチのホーム(安全地帯?)、それに駅のホームが神社の中のような車折神社や、広隆寺、鹿王院、蚕の社といった社寺の名前のついた駅があり、撮り応えのある風景も多いが、嵐山などに出かけたついでに撮り貯めた映像をつないだもの。そのため取りとめもなく、列車の色やデザインが数種類あり、つなぎのイメージが散漫になってしまった感があると反省。なお白梅町～帷子辻の嵐電北野線には、等持院、御室仁和寺、妙心寺、竜安寺といった桜の名所として知られる有名社寺の駅があります。さらに宇多野～鳴滝間には200メートルの桜のトンネルがあり、来春は桜とRANDENをテーマに挑戦と考えていますが…?